舞鶴小学校
学校だより

友の手を引く

２０１９年度
９月２５日
文責
校長　渡邉　豪

※学校だよりのタイトル『友の手を引く』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。

全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

今回の学校だよりは，４月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので，その概要を保護者の皆様にお知らせします。本校のホームページにも掲載して参ります。また，地域の皆様にも，回覧しお知らせして参ります。本調査に参加した６年生保護者には，個別懇談の折に個人票をもとに課題等についてご説明いたします。

1. 調査の内容について

（１）実施日　　平成３１年４月１８日（木）
（２）調査内容
　　実施学年　第６学年

［教科に関する調査］　　※出題範囲は，５年生までの学習内容

・国語「知識」「活用」に関する問題
・算数「知識」「活用」に関する問題

出題内容
◇身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり，常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な問題解決のための構想を立て，実践し評価・改善する力等に関わる内容。

※今年度の調査より，従来 A 問題(主として「知識」に関する問題)と B 問題（主として「活用」に関する問題）に分けられて問われていたものが，A 問題・B 問題を分けることなく，ひとつの問題紙の中に混在して問われる形式となった。
出題形式は，国語・算数においては，記述式の問題を一定の割合で導入している。

［生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査］
◇学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

2. 本校の結果概要について

全国学力・学習状況調査の結果について文部科学省では，正答率±５％の範囲内であれば，差はないものと判断できるとしている。本校の結果をみると，国語は全国平均をやや下回り，山梨県の平均とほぼ同等だった。算数では全国平均及び山梨県の平均とほぼ同等の正答率となる調査結果だった。

［参考］２０１９年度　全国学力・学習状況調査　教科別正答率

	国　　語	算　　数
全国平均正答率	６３．８％	６６．６％
県平均正答率	６２　　％	６６　　％

3．教科別の結果についての考察と今後の指導について

(1)【国　語】

国語は全体では全国の平均正答率をやや下回り，県の平均正答率とほぼ同等だった。

また，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については，全国及び県の平均正答率を上回るかほぼ同等だった。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国及び県の平均正答率を下回った。これは，指定された漢字が，書けていないことが主な要因である。漢字の正答率が高ければ，国語全体の正答率で全国平均及び県平均とほぼ同等の結果であった。

〇得意な学習内容について

・選択肢から正しい内容を選ぶ時，選択肢が適切かどうかを論理的に考えること。
・一つの理由が正しいかどうかを，適切に検討すること。
・一文で示された内容を，適切に読み取ること。
・文章の概要を正しくつかむこと。

〇苦手な学習内容について

・自分の考えをまとめること。
・文章全体を踏まえながら自分の考えを組み立てること。
・た同音異義語の中から，適切な漢字を書くこと。
・1 文を接続語「そこで」を用いて 2 文にすること。

《今後の指導について》

・意欲的に漢字の学習に取り組めるような工夫をする。同音異義語を調べたり，類語・対義語を調べたり，短文つくりを行う。
・文章校正の学習で「長い文を，二つに分けて分かりやすくする。」「短い文をつなげて，文を作る。」など，より分かりやすい文章にするための学習を行う。
・意見を発表する際に「事実を踏まえ，自分の意見を述べる。そして，意見が有効な理由を述べる。」というモデルを参考に意見を組み立てることにより，表現力を育てる。
・読み取って自分の考えを述べる際に，一部分の一つの理由だけではなく，文章のいくつかの部分を踏まえた理由付けを行うようにし，つじつまがあう説明の仕方を指導し論理的な思考力を育てる。
・文章の空白の部分を作り，どんな内容が書かれているのかを前後の文章から類推し，文章を完成させる学習を行う。
・「ことわざの意味は分かっていても適切な使い方が苦手。」「インタビューで相手の意見を踏まえて感想を言うことが苦手。」という実態があったので，授業や生活の中で「ことわざを使って短文を書いたり，普段からことわざを引用して話したりする。」「友達との対話の中で，友達の意見を踏まえて感想を述べたり，次の質問を考えたりする。」といった場面を設定する。

(2)【算　数】

算数は全体では全国平均・県平均とほぼ同等の正答率だった。「図形」「数量関係」などの

知識・理解，式を計算したり，グラフを読み取ったりすることは，全国平均・県平均とほぼ同等だった。一方，計算の仕方を論理的に説明したり，課題を解決するやり方を考えたりするなどの数学的な考え方が全国平均，県平均をやや下回った。

〇得意な学習内容について

・図形については，「台形について理解している」や「図形の性質や構成要素に着目し，ほかの図形を構成することができる」などの正答率が全国平均・県平均と同じであった。
・数量関係については「グラフの特徴を読み取る」「グラフの数値を読み取る」「グラフから分かることとその理由を記述する」などの平均正答率が高かった。この領域では，数学的な思考もよくできている。

〇苦手な学習内容について

・論理的に説明したり，他の場面に当てはめたりすること。
・生活の中の状況を把握し，課題を正確に把握すること。
・多くの情報から，必要な情報を取捨選択すること。

《今後の指導について》

・生活の一部分を取り上げた問題を作り，互いに解き合う。
・活用の学習において，複雑な状況の課題の中から，必要な情報と不必要な情報を見分けること，状況をいくつかのまとまりごとに分けること，課題の全体像をつかむことなどの指導を行う。
・自分の考えを式や言葉を使ってまとめ，それを相手に伝える。また，その際には算数に適した言葉を使うこと等の学習を行う。
・式で表された内容を，言葉を補って説明する。さらに，違う状況に当てはめて説明する。自分の考えを論理的に作り上げたり，友達に分かるように説明をしたりするコミュニケーションを大切にする授業を行う。
・友達と話し合いながら学びを広げたり深めたりする経験を大切にし，その大切さを自覚させる。
・自分が課題を解決する過程を，式や言葉，図，数直線などを使いながら聞き手に分かりやすく説明する学習をさらに重視していく。
・説明された考えを，他の場面に当てはめて解いてみることや，友達の意見を代わりに説明したりするなど様々な学習場面を設定していく。

4.　生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査結果から見られる特徴

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査による児童の状況は，将来の夢や目標，学習意欲・関心等の項目は，全国・県平均と比較して良い傾向が見られた。

改善すべき項目としては，「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日，同じ時刻に起きていますか。」という質問に対して，就寝起床時刻が一定している児童も多いが，就寝起床時刻が一定しない児童が約１割いて，継続した指導が必要である。

しかし，調査全体として全国や県と比較して平均を上回る結果だった。

特に結果が良好であったものを一部例示すると

・将来の夢や目標をもっている児童が９割弱と多く，人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が９８％と非常に多い。
・学習においては，国語も算数も好きだと答える児童がとても多く，両方の教科の学習を大切に思い，将来社会に出たときに役に立つと考えている。また，学習した内容は理解でき，

先生も間違えたところや理解していないところについて，わかるまで教えてくれていると感じている。さらに，国語で学習したことを，生活の中で話したり聞いたり読んだりするときに活用しようとしている。

・「読書が好き」「新聞を毎日読む」と答えた児童の割合が，全国・県平均を大きく上回っている。

◎全体としては，将来に向けて夢・目標をもち，前向きな気持ちで学習や生活に取り組んでいる様子が分かる調査結果であった。

＊＊

※以上のような調査結果を受け，児童の確かな学力を保障するため次のような取組を，さらに継続，重点化していきます。

〇基本的生活習慣の育成を図ります

今後もあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して，学習の基となる基本的生活習慣の定着を図ります。

また，家庭との連携をさらに深め，基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。特に，長時間のテレビ視聴やゲーム，スマートフォン，タブレット等の長時間使用による悪影響を排し，生活リズムの確立を図る取組を行います。

〇より良い学級集団づくりを進めます

より良い授業を行うためには，民主的で人間関係が安定した学級集団が不可欠です。子どもたちが学級のきまりを守り，互いに思いやり助け合う学級づくりを進めます。学校行事や学級学年の行事や取り組みを通して，個人としても学級・学年集団としても成長できるよう，自己決定の場を大切にしながら指導を行います。

〇基礎・基本のより一層の定着を図ります

授業中に計算練習等の繰り返し学習や習ったことの復習を行い，基礎・基本のより一層の定着を図ります。宿題はもちろん，自主学習ノートや市販のドリル等の自主学習に積極的に取り組めるよう指導し，基礎・基本の確実な定着を図ります。そのために，今年度も「家庭学習の手引き」を各家庭に配布しました。

〇活用する力をより一層高めます

子どもたちの思考力や判断力，表現力を育てる「主体的･対話的で深い学び」の実現をめざした授業を積極的に取り入れ，子どもが授業の主役となる「学び合い」の学習を行い，活用する力を育成します。

家庭学習でも，自主学習ノートなどの取り組みをさらに推進させ，自らの疑問を解決できる力の育成をめざします。

〇「やまなしスタンダード」を推進し，「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

見通しと振り返り，動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して，授業改善を進めていきます。